

# 東亞醫學

定價 一部十錢 送料三錢  
一ヶ年一圓二十錢(送料共)  
毎月一回一日發行  
東京市豊島區目白町二ノ一五五五  
編輯發行 小柳 賢一  
兼印刷人 東京市牛込區新小川町二ノ七  
東京市牛込區新小川町二ノ七  
發行所 東亞醫學協會  
電話牛込二七二七番  
編輯東京一九四三〇

## 卷頭言

### 大陸進出には藥劑師を 動員せよ

#### 對支醫療策の捷徑

(一)

蒋介石の抗日教育が多年に亘つて徹底してゐる支那民族のことである。日支事變が東洋民族共同の幸福のために行はれたものであることを容易に肯定する心に至るまで到達してゐないことは悲しいことだが、否定し難い事實である。我國政府は之が對策として多くの宣撫班員を派遣して見たが、單に理論的に聖戰の目的を説いて見たところが果して彼等が従來培つた抗日意識を根柢から捨て去つて呉れるかどうか大きな疑問と云はねばならぬ。最近に至つてこの方策が割合に勞多くして功少きものであることが多くなり判つて來た。これと反對に皇軍の醫療班が好意的に行つた治療の方が、案外に民衆の喝采と支持を受けて、理窟なしに彼等の間に心からの融和の雰圍氣が醸しだされたことが注目せられたのである。そこで醫療班の活躍を俟つ日支融和運動が叫ばれるに至つ

たことは、豫算委員會に於ける猪野毛代議士に對する柳川長官の答辯に徴してみても明らかである。さてその實行策として上海その他に醫科大學を設立するといふ計畫がある。結構かも知れないが、これでは將來のことはいざ知らず、目下の急に應じやうがあるまい。また内地の醫師の大陸進出を希望する向きもある。これも醫師過剰に憚んでゐた過去の時代であつたら賢明な策であるが、現今の状態では駄目であらう。

(二)

藥劑師の狀態は如何といふに、藥局の事業不振は想像に餘りある。生活の脅威なく商賣繁昌を謳歌してゐられる藥局が全國に幾んどあらはるか？ 大部分は商賣競争と薄利主義とのために收支償はず事業不振をかこつてゐる。あちらこちらに濫竽競争の醜い共喰ひが生じたり、中には非常手段に訴へて刑法に問はれたといふ笑へ

ぬ悲劇さへ起つた。藥局不振は藥局を持って藥劑師を作り、結果として藥劑師の過剰を來たした。藥劑師の免状はとつてもその生活は保證されなくなつた。この救済策として同業者間に種々と對策が考案せられ、中には相當の成績を擧げて來た組合もある。一方に於て藥局不振は藥劑師諸君を刺戟して醫藥に對する從來の思想に革命を齎らした。すなはち西洋藥から漢方藥へと方向轉換をして來たのである。從來の藥局は他人の製品を單に請け賣りするに過ぎない。有名藥品ほど口錢が少く需要者の要求があるのでやむを得ず涙をのむて取次いでゐるやうな状態であつた。これでは藥劑師としての教育をなんの爲に受けて來たのかかわらない。藥劑師としての權限も抱負もなにも發揮出來ずにあつたのである。また正直のところ藥局で與へる西洋藥では病氣がなつた。藥劑師自身考へられなかつた。ところが漢方藥を使ふとドシ／＼難病が全快して専門の醫者以上に感謝されるので頗るイ、氣分を初めて味へたのである。以上の様な事情が大いに力あつて漢方醫學の研究熱は藥劑師間に一番旺盛に起つた次第である。拓大漢方醫學講座の體講生の過半数が藥劑師である事實をみても雄辯にこれを物語つてゐる。

(三)

不足してゐる醫者はどうしやう

來す處れがあると當局者は憂へてゐる。がもしも藥劑師諸君が支那に渡つて開業できるとなると消毒のことはお手のものであるからこの點心配はない。また彼等漢方醫たちのよき相談相手ともなり、醫術思想の宣傳後も引き受け呉れることにもなる。その上に漢方醫學の素養があり漢藥に對する理解があるから決して彼等民衆からボイコットされたり、營業不振で

### マラリヤの治療に漢方療法を採用せよ

小柳特派員の大連よりの報告によれば、中南支に於ては、マラリヤが猖獗を極め、彼の地に於ける我が同胞の之に侵さるる者は頗る多く、之れが對策は眞に焦眉の急を要するものである。マラリヤには特效藥としての鹽酸キニーネが存在することが、一般周知の事實であるが、鹽酸キニーネには不快なる副作用の伴ふことと多く、マラリヤを癒して、却つて他病の誘因を作ることがあるのである。而かも現在に於ては鹽酸キニーネすらが拂底の状態であるといふ。支那に於てマラリヤが發生したのは古く、秦漢時代の文獻に既にその記載があり、その治療に關しては二千年の經驗があり、幾多の先人の苦心の結晶が凝されてゐる。然るに明治維新のときさきにつけ込んで、紅毛傳來の醫學のみを醫學とし、東亞の傳統を滅却し、今に至つても猶ほ其の弊を改むることを知らない人々はマラリヤを治す藥は鹽酸キニーネのみと考へ、その他は一切方法がないと獨斷してゐる。抑々マラリヤにキナが有效なることを知つたのは紅毛人ではなく未開な野蠻人の經驗である。必要

引き上げるといふやうなことはないのである。漢方藥を頭から否定してかゝるやうな醫師並に藥劑師の大陸進出はお互に迷惑でもあり危険を伴ふからやめて欲しい。過剰を嘆ずる藥劑師に一ヶ年間の漢方醫學的教育を施して大陸進出の方途を講じてやるといふことは目下の對支醫療策の最大急務ではあるまいか。當局の御一考を切望する次第である。

は發明を生む、必要のない處に發明はない。古來マラリヤに苦しめられて來た支那大陸に、マラリヤに關する文獻の多いのは當然であり、その療法に於ても今日の吾々がとつて飽となすべきものが多いやがて夏が來て、マラリヤの季節となる、此の際鹽酸キニーネがないからとて、手を懐にして傍觀してゐる時ではあるまい。漢方には鹽酸キニーネを使用するよりも、もつと合理的な副作用の少い治療法のあることを知るべきである。知つて而して勇敢に之を採用せよ

マラリヤに脚氣が併發することは、既に漢方醫書に屢々論じられたことと此の脚氣の治療も漢方の治療を採用すれば案外薬に短期間に治癒することは、吾々の日常經驗してゐることである。然るに脚氣に罹つて數ヶ月も癒らず、そのために死亡する人が仲々多いと云ふことは悲しむべきことである。漢方を知らずして、漢方を批難することを止めよと、吾々は叫ぶ。

# 中南支の風土病たる

## マラリヤに就いて

特派員 小柳賢一

此の一文は上海自然科學研究所小宮博士、上海工部局技師永井下博士、南京同仁會院長松原博士、杭州福田軍醫の四氏より材料を得たのであります。

中南支は氣候が暖熱で、揚子江を筆頭に大河江湖クリクが無数であり、所謂南船北馬の地帯を形成して居るので、蚊に對する嗜好の繁殖場をなして居る。マラリヤはアノフェレス屬の蚊によりて媒介され、アノフェレス屬の蚊は現在四十三種あり、實驗的にはこの中七種のもの媒介をなすとすといふ。南京ではヤオ氏の報告によればアノフェレス、ヒルカヌス、フアーリジネンシスが發見されるのみであるといひ、又中支一圓にアノフェレス、ヒルカヌス、アリアピリスネンシスがあり、山東省方面にはアノフェレス、パトニイがありと報告して居る學者もありアノフェレス、ミニムス、アノフェレス、マクラーッスについても分布の状況を調査して見る必要があるといふ。

日熱は三十七名であつたといふ。三日熱は四季を通じてあり、熱帯マラリヤは五月より十一月、熱帯八月より十一月の時期に盛んである。前記錢氏の報告によれば十二月より四月までに至る時期は皆無であつて、五月一、六月一、七月一、八月一、九月一、十月一、十一月一、十二月一といふことになつて居る。

一般の罹患率は、同仁會杉原班の前記報告は常識より非常に低率である。國民政府側の乏しい資料中よりの檢案によれば南京市内及附近では十五—二十%、長江一帯の大小都市は、軍隊及小學兒童にして二十%一般住民は二五%を往來して居るといふ。又越漢線開闢當時の報告によれば、廣東省と湖南省の境地方に於て二十%の罹患率を示したといふ。集團生活の處へ蚊が出て來て一人原蟲保菌者があつると、忽ち全集團者に蔓延するのである。

症候は、一般に知られて居るマラリヤと全く同じであつて、消化器系に特別の症候を現はすことは稀である。慢性のもの非常に多く特別の原因なしに、湯上りに一寸寒い風にあつたとか、或は風をひいたとかにて再發するものが多い。そして再發したものは、神經炎、神經痛を併發したものがよくつた。この併發したものは、浮腫を伴ふのである。これ等に對する藥としては、先づ鹽酸キニーネであるが、鹽酸キ

ニーネは、副作用強く、嘔吐があり、又約五十%以上の再發を見るものが缺點であり、再發慢性のものには効力が更に著しく減少することが缺點である。又熱帯マラリヤに對する治療率も餘りよくない。アテブリンは、副作用としては皮膚黃染腹痛眩暈等を伴ふが特に禁忌といふことがなく、又再發の如きも十%に過ぎないが、只高價にて汎用出來難い點がある。ブラスモヒンはチアノーゼ腹痛徐脈等の副作用を出すので肝臓心臓の機

能障害ある時は投藥禁忌である。ブラスモヒンは熱帯マラリヤに特效あり、又、ブラスモヒンとアテブリンの併用によれば再發をよく、五%迄にすることが出来るが、同じく不廉にて汎用出來難い。

現在の我國ではキニーネの供給が非常に制限されて居る上に、大陸に進出して居る日本人のマラリヤに對する危懼は相當大きいものがある。鹽酸キニーネより有力で廉價なマラリヤ治療藥の發見は痛切に要求されて居るのである。

### 漢方醫の見えマラ

#### リヤとその療法

大塚敬節

#### 緒言

日本内地ではマラリヤは前世紀の遺物として、今日では僅に痕跡を留める程度の病氣になつてしまつたが、中南支方面では、仲々之が猖獗を極め、彼の地にある我が同胞が、此の爲めに頗る難澁して居ることは、別報の小柳特派員及び中島寅男君の報告によつても知られる通りである。

マラリヤには鹽酸キニーネが特效藥である事は既に一般周知の事であるが現今の状態では此の鹽酸キニーネの大量入手が困難にしてマラリヤに罹つて此の特效藥を飲めないといふ状態になつて居る。そこで吾々は眼を轉じて、從來の漢方醫は如何にマラリヤを處置したかを述べて、當路者諸賢の參考に供したいと思ふ。抑々鹽酸キニーネをマラリヤに使用するに至つた動機は、西洋醫學の學理から類推して發見したのではなく、未開

野蠻な土人の經驗に出發してゐる經驗は尊い。乞ふ、偏見を捨てて先人の經驗の跡を追試せよ。

昔は瘧、今はマラリヤ

漢方で瘧と云ふのは、今のマラリヤで、俗にオコリと云つた。瘧といふのは、マラリヤの病狀が丁度病人を酷虐するに似てゐるから名づけたのだと云はれてゐる。支那では随分古くから、此の瘧病があつたと見え、秦漢から六朝時代の間に出來たであらうと云はれてゐる素問、傷寒論、金匱要略等に瘧に關する記載があり、素問には瘧論なる一篇があつて、その病狀を述べてゐる。又金匱要略にも瘧の病狀があつて、その病狀と治法を述べてゐる。傷寒論では瘧に就いての論がある。瘧論では發熱の状態を説明するの如く、如瘧なる言葉を處々に使用してゐる。少く見積つても、此等の書物が書かれてから、既に千六百年は経つてゐるだらう。その間に先人の殘

してくれた經驗、その經驗の記録を讀む事は、私にとつては恰も蒼海に遺珠を拾ふが如きものである。

マラリヤの種類

マラリヤの分類は、漢方と現代醫學とは相違してゐる。現代醫學ではマラリヤ原蟲に三種を區別し、三日熱、四日熱、並びに熱帯マラリヤに分類し、小柳君の報告によれば、上海方面では一年中三日熱が流行し、熱帯マラリヤは夏季に限るとのことである。

漢方では、病狀によつて瘧を分類し、溫瘧、瘧瘧、寒瘧、牝瘧、牡瘧、勞瘧等がある。以上の中で溫瘧と瘧瘧と牝瘧とは熱感が強く、惡寒がないか或は少い場合で寒瘧と牝瘧とは寒が多くて熱の少い場合である。以上は大ざつばな區別で、之を猶ほ細かく別けるとマラリヤが久しく瘧へ次に、慢性となつたもので又老瘧とも云ふ。即ち慢性マラリヤがこれである。

次に漢方に瘧母なる病氣がある。これは慢性マラリヤになつて、肝や脾が腫大して癥瘕を結んでゐるのを云ふ。

#### マラリヤの原因

金匱要略には、瘧の症候とその治法とを述べ、その原因に就いては一切觸れるところが無い。然るに素問、病源候論以下には、之が原因を述べてゐる。今之を要約すると、瘧は外邪で、皮膚から入つてくるものだ、この病氣は暑い季節に多く、土地の卑い濕の多い處の人が多く犯される。而してこの病氣には内因もまた預る處がある。然るに、我邦の江戸時代の學者には從來の説に多少の訂正を要求してゐる者がある。即ち高階枳園は求古醫譜の中で、次の如き説を樹てゐる。

と云ひ、或は七情の鬱結、飢、飽、失時より之を得ると云ふ。素問には夏暑に傷られて、秋必ず瘧を病むと云ふが、是等は皆四時の正氣、情慾、内傷の説である。予が門では是等の説を非とする。抑々瘧は天地間一種の瘴氣(毒の強い惡氣)にして、風寒暑濕とは同じでない。即ち木(何の意味か不明)である。其のものと温瘧(腸チブス)と同一の、狀を異にするだけである。古は之を瘧と云つた沾々として寒瘧するの義に取る。晋宋では之を瘧と云つた。方書に瘧、寒、温、食、牝、牡、鬼、濕等の諸瘧の名目があるが、これは其症候に因つて、之を形狀するのであつて、その元は一つである。云々。

現代醫學の説へと近づいて來てゐる。

マラリヤの症候

マラリヤは發作性に惡寒戰慄を以つて、發熱する疾病で、此の發作は一日の間隔をもつて發作するものと二日の間隔をもつて起るものと毎日起るものがあり、而して時間が一二時間位づつ早くなるものと、一二時間宛おくれるものがある。發作のない間は平生と氣分が變らないものが多い。惡寒は一時間位づつづき、その後發熱し、數時間にして多量の發汗と共に下熱する。而して發作に先立つて數々欠伸を繰返すものがあり、脈は發熱すると大抵は洪數となるが、惡寒のしてゐる間は沈澁であるものが多い。普通舌には變化がない。熱が高くても舌苔の少ないものが多い。發作時には口渴小便赤澁といふ症狀がある。大便は下痢するものもあり、便秘するものもあり、平生と變らないものもある。本病は屢々再發して、慢性になるものがある。

# マラリヤの豫後

慢性になると豫後がよくないの  
で、早く治癒せしめる様に努めね  
ばならない。老人や平素虚弱な人  
は十分に注意すべきである。熱帯  
マラリヤは重篤になるものが多い  
のこである。日本内地のマラリ  
ヤには悪性のものが少かつたと  
見え、有持桂里は瘧疾時疫(今  
の腸チブス)とちがひ變化の少き  
病なれば、醫者三たび脈を折るほ  
どの症に非ず、多くは柴胡や常山  
にて事すむなりと云つてゐる。

# マラリヤの治療

漢方では同じマラリヤでも、そ  
の病人の體質や、症状病勢の如何  
によつて夫々異なる薬方が容易さ  
れてゐて、所謂漢方の陰陽虛實さ  
によつて、治癒することになつて  
る。従つてマラリヤといふ病名が  
決定しただけでは、薬方を決める  
わけにはゆかない。此の點マラリ  
ヤにキナといふ單純さではない。  
故にマラリヤに漢方薬を使用する  
には、漢方流の診察法即ち陰陽虛  
實を判定する方法を知つてゐなけ  
ればならない。大陸の漢方醫には  
僅に一二服の漢薬を用ひて、マラ  
リヤを根治せしめる様な腕をもつ  
てゐる者があるといふ。  
左にマラリヤに用ひて、効果の  
ある薬劑を二三列記する。

- 柴胡桂枝湯
  - 柴胡二、〇、半夏一、五、桂枝  
一、二、黄芩、人參、芍藥、生姜、  
大棗一、〇、甘草〇、五
  - 右一回量水二〇〇ccに入れ煮て  
一〇〇ccとし、滓を去り一回に服  
用す。一日三回。
- 此方劑はマラリヤの初期に用ふ  
る常套の劑で、四五日から十日間  
程用ひ、猶ほ發作の止まざる時は  
截瘧劑を用ひ、又は七味清脾湯、  
九味清脾湯を用ふる。
- 一、柴胡姜桂湯

- 柴胡三、〇、桂枝、栝蔞根各一、  
五、乾姜、黄芩、牡蠣各一、二、  
甘草一、〇
- 右一回量とし水二〇〇ccに入れ  
煮て一〇〇ccとし、滓を去り一回  
に服す。一日三回。

此方は惡寒が多くて熱感の少い  
マラリヤに用ひて、その精神の如  
しの折紙がついてゐる。

- 一、小柴胡湯
- 柴胡三、〇、半夏二、〇、生姜  
一、五、黄芩、大棗各一、二、人參  
甘草各一、〇
- 右一回量とし、水二〇〇ccに入  
れ一〇〇ccに煎じ滓を去り一回に  
服用す。一日三回。

胸脇にさしつかへて發作の止ま  
ない時に、此方に常山を加へて用  
ふるがよいと云ふ。

- 一、九味清脾湯
- 青皮、厚朴、黄芩、茯苓各一、  
二、白朮柴胡各一、五、草菓一、〇、  
甘草〇、五、大棗、生姜各一、〇
- 右一回量とし、水二〇〇ccに入  
れ一〇〇ccに煎じ滓を去り、一回  
に服用す。一日三回。

此方は熱多くして寒少く、口苦  
咽乾、大小便赤澁、脈來ること弦  
數なるものに用ふる。

以上の外に、白虎加桂枝湯、柴胡  
胡去半夏加栝蔞湯等が用ひられる  
次に漢方には截瘧劑なるものが  
ある。此の截瘧劑は發作が四五回  
あつてから後に用ひべきで、最初  
からは用ひてならぬことになつ  
てゐる。截瘧劑には常山を主藥と  
したものが多く、その藥方には數  
種ある。その中の一つを擧げる。

- 一、常積湯
- 常山六、〇、檳榔三、〇、甘草  
一、五
- 右を水二〇〇ccに入れ一〇〇cc  
に煎じ滓を去り一回に服用す。此  
の方に煎法あり。即ち宵に煎じて作  
りたる藥湯を檐前に出しをき翌日  
冷服すると、特に効果があると云  
はれてゐる。

患者は三十三歳の男子にして新  
潟縣下にて農業を營む。先般應  
召し大陸にて活動中一昨年十一月  
不幸マラリヤに感染しキニーネ十  
錠にて一たん治癒せし引續き急  
性腸カタルに右側陰關節炎を併發  
したるを以て内地の陸軍病院に還  
送され治療を受けたり。

## 八味丸の證を呈せる マラリヤ

龍野 一 雄

然るに昨年一月二十九日マラリ  
ヤ再發し、キニーネを服用したる  
所耳鳴を訴へ、其後昨年六月、九  
月、十月と再三マラリヤの再發を  
起したるもキニーネによる耳鳴の  
ために充分なる治療を受くこと  
能はず依て耳鳴を主訴として昨年  
十一月二十二日來院せり。

主訴たる耳鳴は兩側に時々起る  
といふ。稍貧血し、脈は八〇至に  
て緩、舌は異常なく口渇も訴へず  
胸部著變なし。腹診上下腹部は稍  
軟弱にして、直腹筋の拘攣、腹動  
胸脇苦滿、拍水音等いづれも認め  
難し。脾臟は小兒手拳大に肋骨弓  
外に腫脹し硬くして軽度の壓痛あ  
り。右の膝關節は機能障礙なく、

吟味して用ひねばならない。但し  
後發作が必ず斷つと云はれてゐる  
次に瘧母となつたものには、金  
匱要路に載る煎丸なる方があるが  
伊々多味の方で調製が容易でない  
故に柴胡鼈甲湯や、鼈甲、檳榔子  
芫菓の三味よりなる方劑等が用ひ  
られる。

患即ちマラリヤに關しての古典  
的解説は素問一瘧論第三十五及  
一刺瘧篇第三十六に詳細登記さ  
れてゐる。即ち足の三陽三陰の瘧  
によつて各々の症狀を列記してゐ  
る。又肺、心、肝、脾、腎、胃の  
瘧を述べてその症狀を述べてゐる  
そしてそれらの原因、症狀によ  
つて刺の部位(即ち灸)とその方法  
を説いてゐるのである。

## 瘧(マラリヤ)の鍼灸 治法

柳谷 素 靈

## 治療の文化的意 義と漢方

伊澤 凡人

ただこゝで誰人も注意せねばな  
らぬことは素問 瘧刺篇に言ふて  
あるやうに「凡ソ瘧ヲ治スルハ  
發スルニ先ダツコト食スル頃バカ  
リニテ乃チ以テ治ス可シ、之ヲ過  
ギレバ時ヲ失フナリ」とあること  
である。我々が實際瘧に對して應  
用する時は上記の注意を怠つては  
ならぬのである。即ち、瘧の發す  
るは周人周知のところである。こ  
の惡寒期を前にすること少時間に  
刺鍼施灸するのである。

一、何より東亞醫學協會の創立  
を祝福致します。先きに日刊諸紙  
を通じて、その設立を拜見し、次  
いで月刊紙の御配布を給はり、そ  
の躍進と時宜に適切な當然の誕生  
を喜びます。小生も及ぶ限り努力  
をせしませぬ覺悟を持つて居ります  
唯自分の不學をあやぶんで居ます  
一、醫學は大きな文化的意義を  
持ちます。こゝに問題があらます  
つまり同仁會は先きに宮川博士良  
を派遣して醫學に依る戰後支那良  
民の文化工作に乗り出しました。

誠に當然の喜ぶべき現象です。所  
がその醫療の内容が大きな缺點を  
持つて居る現今の輸入醫學からな  
るものでしたらどうなりませう  
か? 日ならずして現今の日本内  
地に於けるそれと等しい缺點を興  
亞の地に曝すを以て宜しく新日  
本的綜合醫療を以て興亞民に對す  
べきです。茲に本誌の殊に大きい  
意義が内在して居ると存じます。

# 日支提携偶感

上海 內山完三

內山完三氏は上海に書店を經營されること三十五年、支那の知識階級の人々に廣き交友を持たれる文化人であり、上海に来る人は必ず一度は氏の意見をたゞかれるのである。記者も一日氏を訪問次の如き談話を得た。平易の中に説かれる所至大の教訓を藏し、再讀三思すべきである。

## 一、支那學に就いて

支那で仕事をしようとするには支那を知らなければならぬ。支那を相手に事をなさんとするならば支那とは如何なるものであるかを知らなければならぬ。これは誰にでも一應はわかることであるが、扱て、日本人、殊に此頃大陸問題と談議し、日支提携を叫ぶ人、人は甚だ多いのであるが、支那を知つて居る人、支那人を理解したる人は甚だ少ないのである。日支同文と云ひ、一衣帯水と云ひ、或は又唇齒相連と云ふ。一體その様な言葉を如何なる意味で使つて居るのであらうか。歐米人に比較してまことに心許ない次第である。彼等は同種同文など決して言はないが、支那に對する研究認識は幾倍の長所を有してそれを著々と實現に移して居る點はたしかに感心の至りである。

## 二、まとめ

纏りといふこの考へが日本と支那ではまるで違つて居る。手近しい例にしてからが、日本程全集のたくさんある國もないものだ。日本では例へ、ジードならジードの作

品が一つ譯出されると後は次から次ぎと矢つぎ早に譯出され、やがて、一年もするやせぬに、ジード全集でた事に纏つて仕舞ふ。何んでもまとめて見なければ気がすまない。これは、日本の國土が狭くて、國境もはつきりして居て、何等他國と紛れる様なことのないといふ環境から來て居るのかも知れない。そしてこれは、日本人のよい特色にもなつて居り西洋文明の如きもの式で研究咀嚼し吸収して仕舞つた。これが支那とたるとガラリと變る、支那には全集といふものが殆んどない。殊に外國人の著作全集など皆無といつてもよい位である。彼等は一つか二つ翻譯して研究するともうそれでやめて仕舞ふ。オーライ、我國語千家中の誰某が既に何十年前云々云つて居る、中國には既に古くから存在するといつた式である、従つて何事もままとめて見ようといふことも云へる。これは矢張り極まる所のない様に廣大なる國土の影響からも來て居るのであらう。

そしてその中に長所と缺點を持つて居る。たゞ禁物なのは、何んでもすぐけじめをつけ、まとめ様とする様な日本人の氣持で、支那人を相手にしてはならないことである。

## 三、支那人の物の考へ方

支那人の物の考へ方と云つても大いに複雑であつて一言で言切れるものではない。よく支那人には「没法子」といふことがあつて、しかたがない、諦めがよいと云ふ人がある。成程さう云ふ點はある

併しだからと云つて、無理なバイオレンスで壓伏して「没法子」と諦め切らせることが出来るかといふに、これは決して、左様簡單には行かない。支那人は現實的であり、現實的に納得行かない限り、死太い壓力で、いつかははね返して來る。彼等は決して人為的の法律とか制度とかを絶対視もしなければ神聖視もしない様である。彼等にあつて絶対的なのは、自然の理法である。自然に對してはもう無條件絶対服従である。それから親に對してである。支那人は理窟や道徳の上で親に孝行等するのではない。倫理も道徳も總じてもつて存知しない支那が親に絕對に服従し孝を致すのは、子は親に造られたものであつて、自己は親に造られた出来に關しては、子たるものは一毫末の微といへども關與する所がない。従つて、親は子にとつて絶対なのである。これが支那の考へ方である。「孝はこれ百行の基」といふのも従つて倫理や哲學として組織されたものではない。只支那人の考への先に既に存して居たものだ従つて教説として儒教なども支那にあつては、王者が國家を統治する政治哲學としてうけとられ、民衆の間に深い根を有するとは云ひ難いのである。

## 四、感情の問題

人は感情の活き物である。このことはどこへ行つても變りがない所なのである。然るに不思議なことに、日本と支那の提携親善云々を計畫したり、實行しようとする人で肝心のこのことを忘れたかを疑はしめる人が在るのには驚くべき點であらう。

感情を主とした問題であるべきだしかるに、その感情を無視してこれを計畫する等全くあり得べきことではない。且つて、野口米次郎氏が印度へ行かれる途次上海に立ち寄り、魯迅さんに會ひ度いと云ふのでお引合せしたことがある。その時米野口氏が「中國は、不得手な軍事と政治を他に任せてはどうか」といつたのに對し、魯迅さんが「そこまで行けば感情の問題です。自分の財産を十圓か二十圓で強奪されると仲々あきらめきかないが、息子なら、いくら極道息子でも全財産を蕩盡されて悔みません、同じ殺されるにしても、自國人の爲に自國人の手で殺される方がはるかに諦めよいのです」と答へられたのを、生々しく思ひ起すのである。

要するに提携親善といふことは權力や強力で壓制したところで殆んど駄目である。支那人は自治の制度が大いに進んで居る。従つて、政府等でやる親善提携の工作は政府の人々を相手にして出来るが、これは國民の間へ大きな力となつて誘つて行くことは出来ないであらう。民間の仕事として、親善提携を策する様な向きは、政府關係など、結びつくことは出来ないが、併し民間にその相手を見出して、立派に實を結ばせて行くことが出来る。これが先づ支那流である。ミツシヨンのなどの活動を見るに、彼等は支那人の習慣を活かして行くといふことについてはまことに細心の注意を拂ひ、そしてそれが長年にわたつて續けられ、又大なる實績をあげて居るのとはつてもつて學ぶべき點であらう。

## 北京に漢方の講習會開催

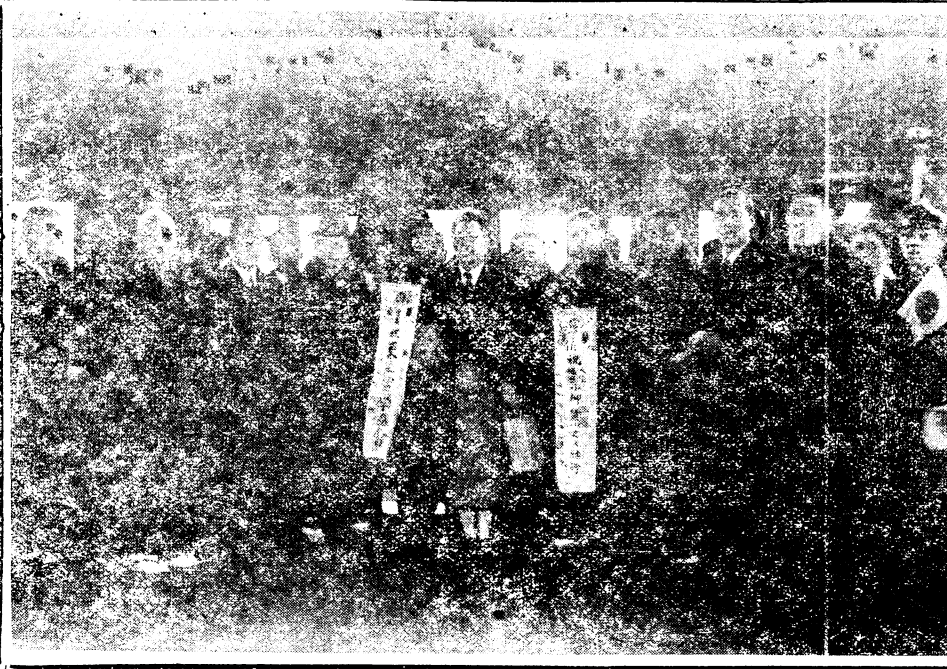
朝鮮桂山醫學研究所を経て、本協會に報道せられたる、北京國醫

沿三十號北京國醫砥柱總社に於て國醫即ち吾々の謂ふ所の漢方醫學の講習會が開かれることになつたといふことである。期間は十二ヶ月で學科は、切脈論、望診論、聞診、問診論、病機約論、傷寒澤識、實用藥物學、婦科診斷學、兒科診

## 東京驛頭に於ける

### 小柳特派員の出發

中央子供と共に立てるは小柳氏



# 漢方科専門科名請願運動經過報告

われ／＼に漢方を標榜させよといふ問題は、昭和九年二月内務省令によつて専門科名の制定が發令せられると同時に起つたことであつた。當時一貫堂が主唱となつて全國三十有餘名の漢方醫が千餘名の賛助を得て請願運動の口火を切つた。その後は主として日本漢方醫學會の理事の人々が活動せられて来たが、まだわれ／＼の目的は達せられずに居たのである。今回東亞醫學協會はその事業の一環として政治方面は差し當つてこの専門科名の許可に主力を注ぐことに意見一致を見た。そして現在協會がこの問題を取扱ふ趣意とするところは、單に漢方専門といふ看板をかけたに過ぎないといふ當業上の便宜からのみにあるのではないことを一言したいと思ふ。すなはち漢方科標榜の許可不可の問題はたゞ看板の問題ではなくなつて来たのである。漢方醫學の地位はこれ以上の社會性を生じて来た。協會はこの問題が漢方醫學の國家的醫療の最重要問題の一つとして取り上げられしことを希望して、その認識は正運動の一つとして盡力することにした。即ち漢方科が公認せられれば、一般の民衆の信用が増すことは勿論であるが、また漢方を野暮視して醫學の價値をすら疑つてゐる大部分の醫師の舊い考へを覺醒せしむる効果は相當に大きいと考へられるのである。

さて去る三月十六日、政治部はこの問題を提げて當局を訪問した。午前九時厚生省玄關前に集合したが、當日は清水藤太郎、矢野道明、有道の三理事、政治部の龜田吉田兩氏の外、各部の役員が自家の用事を纏つて馳せつけられて

總勢實に十六名で、なか／＼の大陳情團であつた。漢方醫者の集りであるからその風體も自然と一般の都會人と異つたところがあるしそれに大團體のことであるから時節柄穩かならぬとも思はれたか九ノ内事情報部の方が尋ねて來られたのには恐縮した。それでわれ／＼の趣旨を説明したら了解されて、一緒に野間衛生課長に面會した。清水理事は醫藥調査會の委員でもあるし、厚生省には知人も多いこと故當局との折衝は主として同氏に依頼することにした。

先づ清水理事は漢方科請願運動の發端より其經過を説明して本日訪問した目的を述べ、ぜひ當局の善處を希望する旨を強調せられた。これに對し野間課長は次の如き意見を陳べられた。即ち漢方醫學の重要性に就ては最近當局に於ても之を認識して來てこれが對策に就き種々と考究中である。たゞ専門科名として之が標榜を今直ちに許可するかどうかといふことに付ては尙一層考慮の餘地があるので、その返答をする迄には待つてゐない。が要するに漢方醫學の優秀性に就ては既に一般から承認されて來てゐるのであるから、たゞ現代醫學界の人達の認識が足らぬ様に思はれるので諸君もこの方面の活動が緊要ではあるまいかといふやうな趣旨のことを語られた。これに附隨して課長は私見としていろいろ意見を述べられたけれども、從來の課長に比較して斯學への認識が相當に深いやうに感ぜられたことは一同非常に愉快と思つたところであつた。最後に課長は漢方醫學に對してはなほ當局として抱いてゐる考へもあり、協會の首腦者と懇談したいと思ふからその内

もう一度會見したいといふことを附言せられた。因て更めて訪問することに於て當日は一同厚生省を辭去したわけである。從つてこの問題は二度目の會見後に於て詳細報告する方が適當のやうに思はれるので、今簡便に記することに留めた。當日提出した請願書要旨は次の如くである。

醫藥制度改革案の中専門科名の整理に關する請願書

請願書

謹で現行醫師法施行規則中漢方科なる専門科名認定に關する件に就て厚生大臣廣瀬久忠殿に請願仕候

請願要旨

昭和八年十月省令第廿八號醫師法施行規則一部改正第十條により規定されたる専門科名中特に漢方科を設けられたし。

請願之理由

一、昭和十三年十二月十九日醫藥制度調査第二特別委員會に於て醫藥制度改善案に關し醫藥制度の改善策を提示せられた後、即ち就ては専門科名の整理及専門醫師檢定制の創設なる項目中(チ)に新に漢方科を新設し之を標榜する醫師に對し、専門醫師檢定制の施行せられ度請願仕候。

二、請願理由の主たるものを左に具陳仕候。

イ、曩に吾等同志は一千有餘名の賛助捺印を得て昭和九年二月内務省令による醫師法施行規則第十條第二項中に漢方科標榜を許可せられたる旨を請願仕候處、當時の衛生課長白然鶴樹氏は大いに吾等の存意を諒承せられ候依て從來漢方を標榜し來れる全國醫師三十有餘名は各自所轄警察署を通じて漢方科標榜許可願書一提出し候處今日まで何等の回答無之候其の處も屢々吾等は當局と折衝を重ね候處、時期尙早なる點と、漢方科標榜を希

望する醫師數の他科に比して比較的少數なること、之を檢定諮問する機關の不備との理由を以て之が實施に逡巡せられる、機推察仕候。然るに最近に於ける漢方醫家の地位は當時と全く面目を異にするに至り特に日支事變勃發後に於ては頗るその重要性を加へ候。

ロ、昭和十三年五月號「漢方と漢藥」誌所載によれば、現在全國の漢方治療に従事せる醫師數は大略八十八名と發表せられ候も之が標榜を希望する者は恐らくその數倍を越ゆること、存候。尙ほ昭和十三年四月より拓殖大學に漢方醫學講座を新設せらるゝや二ヶ年間に二百數十名の修了者を算し候。斯くの如く既に大學に於て漢方醫學講座の設けられたること、及び漢方科標榜を希望する醫師數の激増とにより、之を専門科名として認むるゝも、決して支障なかるべしと思考仕候。

ハ、尙ほ漢方科標榜を希望する醫師の檢定制に就ても吾等は次の如き方策の用意有之候。即ち現在漢方醫學研究團體並に教育機關として「日本漢方醫學會」「拓殖大學漢方醫學講座」「日本醫學研究會」等之候へば、その何れかに囑託し、専門醫師に一定の試験を課せられ合格者にのみ漢方科標榜を許可せらるゝといふ方針に有之當局の御一考を煩はしたく候。

結 論

右の如き漢方醫學の趨勢と種々なる理由とにより漢方科を専門科名として御認定あらむことを請願仕候。

昭和十四年三月

東亞醫學協會理事(イ、ハ、順)

石原 保秀 大塚 敬節  
龍野 一雄 矢野 道明  
柳谷 素靈 矢野 有道  
木村 長久 清水藤太郎

# 中國漢方醫界の現況 と日華提携に就て (三)

大塚 敬節

それが一昨年の二月には上海の中國醫學院の主催で、日本漢醫勃興展覽會なるものが開かれました。こゝにその時の目録がありましてその内容は、一、漢醫團體の活動狀況、二、漢醫學校の勃發、三、漢醫醫師の開業狀況、四、漢醫醫院狀況、五、漢藥店及販賣者狀況、六、日本刊行の漢醫誌狀況、七、日本刊行の漢醫書籍、八、日本精中國醫籍本の部分に分けて夫々の資料が掲載されてあります。而してこの展覽會を開いた目的が卷頭に出てありますが、それをみますと、對内的の目的としては、中國醫學院の學生の知識を増進せしめ、日本に於ける中國醫藥の科學的研究狀況を考察せしめ、對外的の目的としては全國の上下の人々の醫藥を重視せしめ、科學界の參加を喚起して國醫即ち漢方の科學化の實際工作に資せんがためであるといふのであります。

日本の漢方醫は數に於ては、かの地の醫者とは較べものにならない程僅少であります。又政治的勢力に於ても微々たるもので、殆んど問題にはなりません。然るにかの地の漢方醫は吾々を見るに以上の如くであります。

一昨年のことになりましたが、私は駐日國民大使館の書記をしてゐる洪松齡君の病氣を治療し、その節色々と漢方醫學の話をしたことがありますが、洪君は漢方に深い理解があり、私は洪君を通じて、民國の國醫學界の狀況を聞くこと

が出来ました。その節洪君は私に次の様なことを話しました。中國に於ける若きインテリ層の間には支那の漢方の陰陽五行五運六氣の說を迷妄なりとして排撃する者が多いが、さればとて外科的處置を要する疾患は別として、内科的疾患を西洋醫に診て貰ふことを欲しない者が多いので、漢方は今日でも仲々根強い地盤を持つてゐる。そこで吾々の希望としては、中國の漢方醫學を科學化せしめねばならないと云ふ意見を持つてゐるのです。その點になると日本の漢方は頗る科學的であるから、心から信頼することが出来ると附言しました。こゝに持参しました雜誌にも、此の洪君の言葉を裏書きする如く、その論說には漢方の科學化に關する論考が見えてゐまして、その範を我邦の漢方醫學にとつてゐるのであります。

以上述べました如く、中華民國の漢方醫學界は最近に至つて益々革新的機運が深まつて參りまして、今更でいへば、もつと大規模の大學や研究機關を作つて、漢方を科學的に研究せんとしてゐまして、此等の機運は今迄の事變によつても揺ぐことなく、尙一層盛んになつてゆくことと思はれます。然るに先程述べました様に、われわれは此等の革新運動の先覺者として中國漢方醫學界から敬慕せられてゐる實狀であります。にもかゝらず我邦には、漢方研究の雜誌として、二、三を數ふるに過ぎず、(以下六頁につづく)

# 陸相眼の上の瘤

石原保秀

過般の新聞紙上に、板垣陸相眼の上の瘤と云ふやうの記事があつた。今を時めく陸相の眼の上の瘤とは、如何だらうと、釣り込まれて見ると何の事は無い可なりが行が眉の邊へ出たので、○○の○○と云ふ皇漢醫にかゝつて治療中だとの報道であつた。○氏が漢方醫(世間ではさう云つて居る)として、又癩疔のお隣者さんだとして大に名譽を博して居ることは久しいものである。随つてお手許の軍醫諸公を後目にして、陸相も其れにかゝつたのであらう。實は數年前、私もそれだと云ふ一種の癩疔を見るの機會を得て、ナール程と思つたことがある次第であるが、癩疔の何れにも、亦誰にでも其れを使つて居るかどうかは知らないけれどそれは一種の黒糖を酒劑にしたやうのものであつた。兎角草根木皮の類が、良々もすれば「エタイの分らぬ癩」などと輕視され勝ちの世の中に於て、而も帝都の眞ん中に、此黒糖的水藥を以て、一旗幟を翻して居ると云ふ御仁のあることは、我皇漢醫學の爲にも、大に氣焔を吐きつゝあるものと謂ふべきである。

言ふ迄も無く疔に對する療法としては、針灸刀截の外、各種の解毒湯類が應用されて居る次第だが併し尙至極簡單で俾效あるものと雄黃蟾酥、又は菊の葉等を擧げることが出来る。野蒜は後藤良山の病因考に見えるものだが「之を黒燒にして酢に溶き、疔の頭をよけて塗る、奇方なり」と言つて居るものであり、五八霜の類は俗に郡葉と稱されたもので、牛山活套に「五八霜、櫻木皮黒燒、熊膽各等

分に於て細末し、猪の油にてとき火に温めて疔の上に貼れば、汗出でて其儘治す」とあるものだが、後藤藥庵の帳中遺稿には「此邦の一樹、俗に蟹瓜刺(サクラ)と呼ぶ者、其樹皮の黒霜を極細末とし、麻油に調へて之を四圍に塗り、匪藥に擬して紙花を貼り、中心に孔を留めて蠅蛇の未を繰れば、疔根一塊を脱出す。誠に行家の良方なり。一片の婆心、用者諒せよ」と云つた類方がある。

# 同窓會にて

木村長久

開業醫はお互に繁忙なので友人を訪ねる閑はない。一年に一回の同窓會に顔を出すや誰かしらに遇へるものでつとめて出席してゐる。先日も久し振りで友人に遇つた。僕が漢方醫であることはクラスでも有名になつてゐるので、話は自然に漢方に落ちる。友人曰く「どうも近頃は漢方がなかく盛になつたネ。漢方に何か病の特効藥はないかネ。僕は何か病の特効藥は漢方に對する認識は相變らずこんなものかと聊か落膽したが、之を機會に説法もよからうと考へて大體次の様な話をした。

癩や結核を必ず治すと云ふ藥が漢方にあると、漢方はスバラシク盛んになるのだらうが、生憎僕の方にはそんな妙藥は持合せがない大體漢方には特効藥とか、特殊療法とかいふ考へは無い様に思ふ。結核の治療にしても、今日の考へでは結核は、結核菌がその原因であるから、結核菌を殺せばいいのだと云ふ點に集中されて色々の治療考が考案されてゐる。従つてその治療考は結核であればその病人の體質とか、一般状態の如何に關らず投與するといふことになる。然るに漢方の治療では結核菌は無しとして、病人の體力増進を計ることを主眼とする。體力が増進すれば結核菌は居ても無力になるといふ考へである。體力増進といつても単に滋養強壯剤を用ひるのではなく、病人の體質により、身體全體の調子をよく觀察して、疾病治療に最も能率的な方向に導いてやるのである。故に同じ病名の疾患に罹つたとしても、肥つた人、瘦せた人、便秘勝ちの者、アトニー性の者、等其他色々の特徴によつ

て夫々治療劑を異にする。要するに身體全體の調子をよくしてやれば自然に治療過程が促進されると云ふ考へである。

例へば食慾不進に對する藥物に就いて云へば、柴胡、黃芩、半夏、生薑等を配伍して與ふべきものがあり、更に大黃を加ふべきものがあり、又は黃連、桂枝、半夏、生薑と配伍すべき場合があり、又は人參、白朮、茯苓、甘草を配伍して與ふべき場合がある。其他細かく考へれば色々な藥物配伍の場合がある。そしてそれらはみな診斷上の根據があつて區別されるのである。漢方では配合されるものではない。漢方はどんな場合に通用する食慾促進劑といふものはない。そこに漢方のむづかしさがあり、面白味がある。兎に角漢方治療の考へ方は現代一般の考へとは趣きを異にしてゐる。

# 東亞醫學協會四月例會

四月二十日(木)午後六時半より

研究機關としては何等完備したのもなく、又教育機關としても、貧弱乍ら本大學の漢方講座が一つあるきりでありませう。而して漢方(五頁よりつづく)

友人曰く「成程々々、それぢや漢方もなかくむづかしいものだネ。その内に教へて貰ひに行くよ君の話は相變らず道學流のところがある昔と變らないのがうれしいヨ」と云ふ様なことで袂を別つた。

わかれは今こそ立ち上らねばならないのであります。東洋が東洋自身で立ち上る時は來たのであります。東洋の歴史を貫て來ました東洋醫學こそ、今後起るべき新東洋文明の魁をなすものであり、日華滿三國を結ぶ樑であり、之を貫く心樑であります。どうか滿堂の諸君よ、われわれの運動に御賛同御後援あらんことを、希望し、この講演を終ります。(昭和十三年十一月二十五日、東亞醫學協會發會式に際しての講演筆記)

病院としては大規模のものはない一つもないといふ哀れな實狀であります。かくの如き薄弱なる組織を以つてして、どうして中華民國の漢方醫學界と提携し、之を指導することが出来ませうか、に於て、我々は敢然立つて、東亞醫學協會を設立し、漢方醫學を教授する専門の學校と、漢方醫學を開設し、漢方の眞價を内外に向つて發揮し、中華民國の漢方醫學界とみつしり手を握つて、世界に冠たる東亞醫學を建設すると共に、東洋永遠の平和の基礎を確立せんとするものであります。

協會員には此廣告を以つて通知に代へますから、御誘合せの上多數御來會下さい。

- 一、日時 四月二十日(木)午後六時半より
- 一、會場 神田區淡路町東京醫師會館
- 一、會費無料 (但し會場費として當日參拾錢申受く)
- 一、講演 1、東亞醫學の綜合思想に就て 2、漢方藥と代用品に就て

來聽歡迎

失敬 道 明氏  
清水 藤 太郎氏

# 小柳特派員の講演

南京に於ける大民會指  
導部養成講習會に於て

三月十七日南京白子路、大民會南京聯合會樓上に於て、大民會にては東亞新秩序の建設の中心推進力となるべき優秀なる中國青年六〇餘名を集めて、新東亞建設理論の把握の爲め講習會を三週間にわたる開催中であつた。召集されて集まつたものは、上海、杭州、嘉興、蘇州、無錫、蕪湖、漢口、武昌等中支揚子江域一圓より撰拔されたる精銳達であるが記者は大民會本部の懇囑により十七日午前七時半より約二時間半に亘り、「東亞醫學」の建設に就いてなる題目の下に、講演をなし多大の感銘を與へた。講習内容を左の如し。

- 1、東亞醫學協會設立の事情と
- 2、西洋醫學の特徴について
- 3、漢方醫學の特徴について
- 4、日本に於ける漢方醫學の發達と現況について
- 5、我々の知り得たる中國の漢方醫學の現況について
- 6、結語、東亞醫學の建設抱負について

この講演は、馬木蘭(前川絹枝)女史の通譯によりてなされたのであるが受講生大多數の希望により、華譯されて汎く、社會に頒布されることになり、原稿用紙六〇枚に整頓して大民會總本部に交付し置いた。

## 本協會宛寄附者芳名

- 東京 石川新之助氏
- 同 陳石萬氏
- 同 青木俊道氏
- 同 西澤生惠氏
- 同 大柿徳道氏
- 一金五圓也 大阪清川 玄道氏
- 一金五圓也 東京高島堂藥局氏
- 一金廿圓也 横濱清水藤太郎氏
- 一金拾圓也 東京矢數 道明氏

## 右正二拜受奉深謝

- 同 小出 壽氏
- 同 中村 高次氏
- 同 丸田 可平氏
- 同 大浦 勇吉氏
- 同 高橋幸次郎氏
- 同 吉田 廣明氏
- 同 武藤 敏文氏
- 同 淺野 正義氏
- 同 栗原 廣三氏
- 同 石野 信安氏
- 同 中原富一郎氏
- 同 山本仁之助氏
- 同 朝井 定氏
- 同 渡邊福三郎氏
- 同 阿藤 完之氏
- 同 溝呂木はな氏
- 同 山田 貝夫氏
- 同 福山 省吾氏
- 同 田 燒 穂氏
- 同 黒田朝太郎氏

## 月刊漢方と漢藥

定價五十錢  
送料三錢

## 創刊以來六ヶ年 漢方醫界の 最高權威

東京京橋横町  
二の五不二ビル

## 日本漢方醫學會

## 東亞醫學協會々則

- 一、名稱 本協會ハ東亞醫學協會ト稱ス
  - 一、目的 本協會ハ日華滿三國ニ於ケル東亞醫學ノ交驩研究ヲナシ、相互ノ親善交友ヲ緊密ナラシメ、進ンデ東洋文化ノ振興ヲ圖リ、以テ東亞永遠ノ平和確立ノ爲メニ貢獻セントス
  - 一、事業 本會ハ目的達成ノタメ左ノ事業ヲ行フ
    - 一、機關誌「東亞醫學」ノ刊行
    - 一、各國ニ於ケル機關雜誌ノ交換
    - 一、各國ニ於ケル著書論文ノ交換
    - 一、各國ニ於ケル優良藥品ノ交換
    - 一、研究生視察團ノ遊學交換
  - 一、漢方病院ノ設立、漢方圖書館ノ設立、和漢藥研究所、漢方醫學教育機關等ノ設立
  - 一、組織
    - 一、其ノ他目的達成ニ必要ト認ムル諸事業
- 本部 諸事業東京市小石川區若荷谷卅二番地 拓殖大學漢方醫學講座内 電話大塚(86)一三〇番、六七三〇番
- 事務所 東京市牛込區新小川町二丁目七番地 借行學苑内 電話牛込(34)二七七二番 (通信及問合せ等ハ一切事務所宛振替東京一九、四三〇番)
- 理事 當分 問拓殖大學漢方醫學講座講師ヲ理事トス
- 會員 本會ノ主旨ニ賛成シ、目的達成ノタメ盡力セントスルモノ
- 會費 當分ノ間之ヲ徵收セズ(例會ニ於ケル出席者ハソノ都度會場費ノミヲ中受クルコト)
- 贊助員 本會ノ主旨ニ賛成シ目的達成ノタメ助力セラル、モノ
- 顧問 本會ノ事業遂行上顧問若干名ヲ置ク

## 拓殖大學漢方醫學講座、講師及教材

- 一、漢方醫學總論 醫師 矢 數 有 道
- 一、漢方醫史學講義 醫師 龍 野 一 雄
- 一、漢方古典解題 醫師 龍 野 一 雄
- 一、傷寒論入門 醫師 大 塚 敬 節
- 一、傷寒金匱要方釋義 醫師 大 塚 敬 節
- 一、後世要方釋義 醫師 矢 數 道 明
- 一、漢方治療各論 醫師 矢 數 道 明
- 一、漢方治療各論 醫師 木 村 長 久
- 一、漢方藥學講義 藥劑師 清 水 藤 太 郎
- 一、漢方藥理學講義 藥劑師 清 水 藤 太 郎
- 一、鍼灸療法學講義 鍼灸師 柳 谷 素 靈
- 一、鍼灸治療學講義 鍼灸師 柳 谷 素 靈
- 一、臨牀講義、特殊講演、見學懇談等 鍼灸師 柳 谷 素 靈

# 天津市街衛生局長と漢方に就いて語る

北支派遣 中嶋寅男

去る日、天津市街衛生局長傳汝勤と云ふ六十歳位の方に刺を通じて約一時間面談致しました。この先生は東京帝大の醫科出身にて日本語が非常に達者で、筆談通譯なしで樂な氣持ちで色々當地の狀況を語られました。當地には規定の醫學卒業に依る中醫漢方醫は非常に少なく殆んど皆無の状態と云ふ事です。中醫は當地に於て衛生局にて試験官を指定して、それによる試験制度であること、自分としては西洋醫學修了後に於ける漢醫學修得を理想としてゐる事、當地には全然無關係のものも中醫としてパンの爲めに開業してゐること支那住民は西洋醫を好まぬ傾向にある事、等を語られました。この事は刊刊號頭言に述べられてゐるやうに、支那人は西洋醫にはたよらない。中醫が常に云ふ西醫已末路近漢醫奥妙深遠と云ふ事も、何時の間にか知つてゐる様です。そのため當地に於ける日本からの開業醫を二三訪問して意見狀況を知りましたが、事實と確めました。

ある開業醫は支那人、鮮人等の花柳界に相當費用を出資して病院を始めてゐられるが、開散のやうです。承れば支那人は未だ曾て一人人を目的とするなら、日本租界が良いといふ事をほのめかして來ました。と云ふ様に支那人を相手の目的なれば、とんだ事になります。卷頭言正の中です。事實花柳病中盤の治療による方が急速に治癒

する事を知りました。彼の開業醫某は急性なものには、矢張り注射がよい、せじ薬なんかでは到底及びませんからなあと云はれたが漢方の偉力を御存じないらしい。紫圓、桔梗白散の偉力を御知らせたい氣にもなつたが、敬意を表して其日は歸りました。

又日本租界の旭街にある日本醫院に皇漢療法喘息、リウマチスと云ふ看板を視て、我黨の士、北支にありやと感激して訪れました。矢張り西洋醫にて、前記皇漢とは賣藥的なもので、効く人もあり効かない人もあるだらう。白髮の壯年先生で顔面神経麻痺の跡のある風彩のある方でした。これも開散で日本人の患者のみであります。當市にある唯一の共立病院と云ふのがあります。そこも矢張り日本人の病院で、支那人は皆無であります。即ち支那人は西洋醫には無關係と云ふ事が證明されました。現在天津には中醫が千人か千五百人位居ます。南京よりは現在に於ては多數であります。尤も南京は事變の際避難して歸つて來ないものが未だ相當數あります。傳先生の話では、天津市長は漢方醫學の研究家でもあり、大家でもある事を承知しました。而會の折りを樂しみにして居ります。當地の藥店では相當立派なものがあります。南京よりも事變に影響なかつた爲か、設備は堂々たるもので、原料品質は私の視た内では、一等地を抜いてゐます。値段も現在の内地より廉いと思ひます。大黃は錦絨

ばかりを使用し、柴胡に於ては内地産が良質であり、丸薬は進歩してゐる點は又非常に参考になり興味をひきました。

總じて中醫の診療は内地同様午前外來、午後往診と云ふ立前になつてゐます。診察の狀況を視ますと、脈診のみで、外來の場合は殆んど脈診はしないやうです。往診の場合には必要により脈診、舌診も行ひますが、主に脈診、舌診のみで満足してゐるやうです。可成り精密に全精神を以つて脈診してゐます。天津には藥店內中醫は居りません。田舎にはそれが時々見受けられます。即ち店舖内にテーブルと椅子とを並べて診察してゐます。然し總じて別々で處方箋を發行してゐます。

岸原鴻太郎氏  
相州腰越の鍼灸家岸原鴻太郎氏は三月十九日八十四歳の高齡を以つて逝去せられた。氏は二十五歳にして辯護士試験に合格し、法曹界に活躍すること二十五年、齡五十古のために、大いに努力された著書に「萬病鍼灸全書」萬病名灸集、漢醫術新解及索引等がある。

衛生材料の改革  
北支派遣 中嶋寅男

拜啓 當地もめつきり春らしくなりました。御一同様には相變らず御壯健の事と拜察致します。東亞醫學第二號御送附下され有難う御座いました。此の間市政府の王さんと久しく面談致しまして、今事變に於けるコレラ、チフス、赤痢、マラリア等の支那人に皆無の状態にありながら、ひとり日本人のみにその罹病者の多いのは、何の爲であるか、最も研究すべき重點である等興味ある事と云はれました。考へてみますと、全くそうであります。先日、小生ある〇〇病院長と剪記疾病に關し、意見を交換致しまして、現在の衛生材料に一大變革の來る日も遠くはないでせうと。東洋人が西洋藥の高價な材料を用ふるの現在の國策に順應しない。支那全土にわたる豊富な材料を活用すべき時機に到達した等色々意見を述べまして、今後衛生材料を改良、國策に沿ふやう力説されました。(中略)當地天津市長は近日、東京に於て開催される都市計畫に出席される筈にて、何れ御面會の折もある事と思ひます。當地市政府内の黄さん、王さんの大人により漢方病院が設立されて、施療病院の形式らしく

その設立を急いでをられます。益々刮目すべきことと思ひます。當市長は丁度改選期にあるため非常に多忙にて東奔西走の状態のやうに承りました。

〇去る三月五日、本協會委員小柳賢一氏は、大陸視察の目的をもつて、渡支の途に上れり。別項掲載の寫眞は當日、東京驛頭に於て撮影せるものなり。

〇拓殖大學漢方醫學講座の産後夜として、種々斡旋の勞をなされた千倉武夫氏は、最近「金元清三朝統治史攷」なる好著を刊行せり同氏の諸説には聴くべきもの頗る多し。

〇日本漢方醫學會、機關誌「漢方と漢藥」は來る六月號を大陸醫學研究號として特輯。一般世人の注意を喚起することとなれり。

〇去る三月十六日、本協會役員十數名は打通れて、厚生省に醫務課長を訪ね、漢方醫學に關して種々懇談せり。

〇去る三月九日、本協會三月例会は、東京醫館會館に於て開催、本村長久氏の原南陽先生の賦方に就いて、柳谷素體氏の原南陽先生の賦法に就いてなる講演があり盛會

〇元政友會代議士、竹下文隆氏は青島市に東亞醫學大學を創設し、目下學生募集中なり。同校に於ては西洋醫學を教授し、東亞醫學の本流たる漢方に就いては關心を持たざる如し。

〇東大教授橋岡邦彦先生は今回、日本醫學研究會の會長に就任せられたり。同會今後の發展は期して待つべきもの多し。

〇「東邦醫學」主幹、醫學博士駒井一雄氏は、今回、東京、日本橋春陽堂より「經濟經穴學」を刊行せり。〇本協會理事龍野一雄氏は、文獻に現れたる類、漢方の代用藥の二

編を最近の醫事公論に當表せり。

〇本協會理事木村長久氏は、漢方治療の特長なる論文を、最近の日本醫學新報に發表せり。

〇本協會理事大塚敬節氏は、傷寒論に現れたる治療法の特長なる論文を最近の日本醫學新報に發表せり。

本協會、會員にして、篤學を以つて知られたる小出壽氏は、今回日本食養立言なる一書を刊行せり。獸々として十數年間身をもつて、研究せる精華なれば何人も一讀すれば、大いに得る處あるべし。

〇二三日前から九段の靖國神社の櫻が咲き始めた。歳々々々花相似たり歳々々々人相同じからず。時は流れる。一切のものに移り變るそれなのに、醫界の長老の中には明治時代の澤庵亡國論の夢を未だ見てゐる者がある。

〇昨日から拓大の漢方講座の六年度の講義が始まった。聽講生は百名を突破する盛況だ。みんな必死だ。

〇小柳君と中嶋君よりの報告の一部を、本號に載録した。來月號はもつとすばらしいものをお目にかける。

〇チフスも赤痢もマラリヤも漢藥と灸を適宜に使用すれば、西洋流の治療よりも手軽に癒るのに、當局は何故に漢方を採用しないのか。醫學の目的は先づ病氣を癒すことだ。病氣を癒さないで、理窟をこねても仕方あるまい。くだらぬことに金を使ふよりも漢方の大病院でも樹てて、病人を癒すことを始めてはどうか。

〇今月は原稿が餘る程あつて、來月號に廻つたものが、數篇あつた執筆者諸君の御寛容を乞ふ。

山城 正好氏  
長崎市與善町一に漢方醫術を以つて開業せる山城正好氏は三月十八日逝去せられた。享年五十九歳。氏は明治四十一年長崎醫學專門學校を卒業し、その後漢方を學び、湯本求真先生の流を汲んで、大いに漢方の復興のために盡力せらるる處があつた。氏は漢詩をよくし又書に巧みであつた。



## 編輯後記

〇二三日前から九段の靖國神社の櫻が咲き始めた。歳々々々花相似たり歳々々々人相同じからず。時は流れる。一切のものに移り變るそれなのに、醫界の長老の中には明治時代の澤庵亡國論の夢を未だ見てゐる者がある。

〇昨日から拓大の漢方講座の六年度の講義が始まった。聽講生は百名を突破する盛況だ。みんな必死だ。

〇小柳君と中嶋君よりの報告の一部を、本號に載録した。來月號はもつとすばらしいものをお目にかける。

〇チフスも赤痢もマラリヤも漢藥と灸を適宜に使用すれば、西洋流の治療よりも手軽に癒るのに、當局は何故に漢方を採用しないのか。醫學の目的は先づ病氣を癒すことだ。病氣を癒さないで、理窟をこねても仕方あるまい。くだらぬことに金を使ふよりも漢方の大病院でも樹てて、病人を癒すことを始めてはどうか。

〇今月は原稿が餘る程あつて、來月號に廻つたものが、數篇あつた執筆者諸君の御寛容を乞ふ。